

# 温泉成分等のご案内



源泉名  
泉質

桐生新里温泉 赤城南麓の湯  
アルカリ性単純温泉(アルカリ性低張性低温泉)

赤城カントリー倶楽部

## 温泉1kg中の成分

泉温(分析時)

30.1℃

水素イオン(pH値)

8.45

### (1)陽イオン

成分	ミigram (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
ナトリウムイオン( $Na^+$ )	120	5.24	79.59
カリウムイオン( $K^+$ )	3.63	0.09	1.41
マグネシウムイオン( $Mg^{2+}$ )	4.73	0.39	5.92
カルシウムイオン( $Ca^{2+}$ )	16.6	0.83	12.58
鉄(II)イオン( $Fe^{2+}$ )	0.51	0.02	0.28
マンガンイオン( $Mn^{2+}$ )	0.05	0	0
アルミニウムイオン( $Al^{3+}$ )	0.13	0.01	0.22
陽イオン計	146	6.58	100

### (2)陰イオン

成分	ミigram (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
ふっ素イオン( $F^-$ )	0.5	0.03	0.44
塩素イオン( $Cl^-$ )	25.7	0.72	11.12
硫酸イオン( $SO_4^{2-}$ )	142	2.96	45.32
炭酸水素イオン( $HCO_3^-$ )	149	2.44	37.44
炭酸イオン( $CO_3^{2-}$ )	11.1	0.37	5.68
陰イオン計	328	6.52	100

### (3)遊離成分

#### ア、非解離成分

成分	ミigram (mg)	ミリモル (mmol)
メタけい酸( $H_2SiO_3$ )	19.7	0.25
メタほう酸( $HBO_2$ )	0.8	0.02
非解離成分計	20.5	0.27

#### イ、溶存ガス成分

成分	ミigram (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素( $CO_2$ ) (遊離炭酸)	0.8	0.02
遊離硫化水素( $H_2S$ )	0	0
溶存ガス成分計	0.8	0.02

### (4)その他の微量成分

銅イオン	0.004mg/kg
総ヒ素、鉛イオン、総水銀	検出せず。 (0.005mg/kg未満)

分析年月日  
登録分析機関  
温泉分析登録番号

平成20年1月23日  
(社)群馬県薬剤師会  
群馬薬第2号

### 入浴を控えた方が良い疾患及び症状

急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般的に病勢進行中の疾患、妊娠中(特に初期と末期)。

### 入浴をすると良い疾患及び症状

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進。

### 温泉利用方法及び注意事項

- ア、温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当り1回程度とすること。その後は1日当り2回ないし3回までとすること。
- イ、温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適當とすること。
- ウ、温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり(湯さわりまたは浴湯反応)が現われることがある。「湯あたり」の間は、を減(または入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと)。
- エ、以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
- (1)入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
  - (2)入浴中は、運動浴の場合は別として一般的には安静を守る。
  - (3)入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない(湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉を取るのがよい)。
  - (4)入浴後は、湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
  - (5)次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とす・高度の動脈硬化症 ・高血圧症 ・心臓病
  - (6)食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。
  - (7)飲酒しての入浴は特に注意する。